

電気火災を防ぎましょう

電気火災とは、電気や電気製品などに関わる火災の事を言います。電気製品は私たちの日常生活において不可欠なものとなっていますが、電気が原因による火災も年々増加しています。

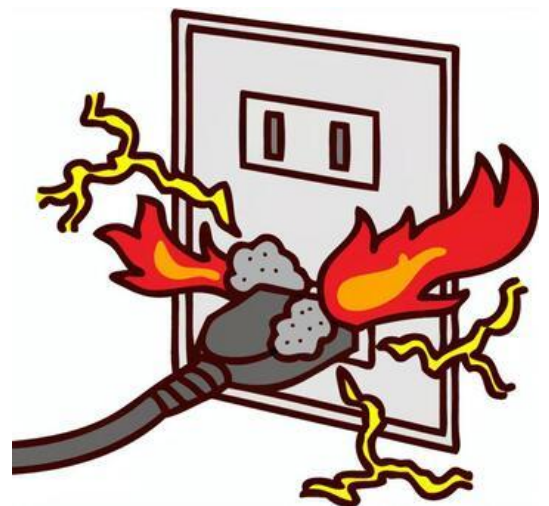
暮らしに欠かせない電気も使用方法を誤ったり、確認を怠ったりすると火災となることがありますので注意が必要です。電気火災の特徴を知って、電気火災を防ぎましょう。

トラッキング現象による火災

トラッキング現象とは、コンセントとプラグのすき間にホコリがたまったまま湿気を帯びると、微小電流が流れ、やがて炭化し電気の筋道（トラック）が作られます。その状態で使用を継続するとショートし発火の原因となります。

事前の対策

- ・コンセントと差し込みプラグのすき間にホコリ等をためないように、定期的に掃除をしましょう。
- ・差し込みプラグは、使用時以外コンセントから抜く習慣をつけましょう。

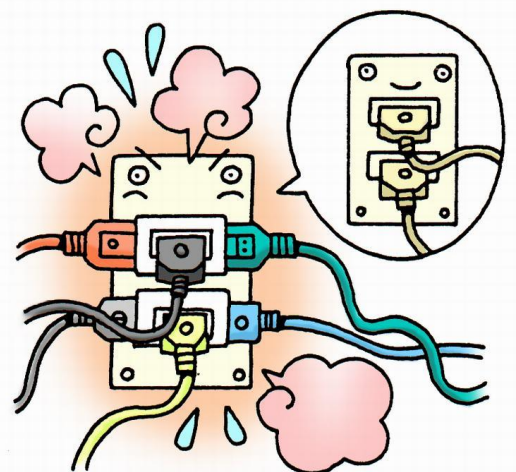


過電流による火災

コンセントや延長コード(タップ)には定格容量が決まっています(一般的には1500W)です。たこ足配線などにより、一度に多くの電気製品を使用し続けると、定格を超えた過電流が流れ、発熱して出火する恐れがあります。またコンセントへの差込数が少なくても定格を超えると危険です。

事前の対策

- ・それぞれの電気量を確認して使用しましょう
- ・コードが家具の下敷きになったり、日常的に踏みつけ、傷ついたりしないようにしましょう。

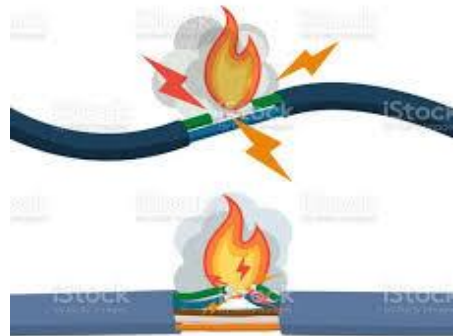


漏電による火災

電気配線や電気器具類には、電気が漏れないように絶縁と言う処理がされています。電線が傷ついたり、老朽化し被覆がはがれるなどにより漏電が起こります。また、防水性能がない電気製品が水を被ることで漏電は起こります。漏電は感電事故や火災の原因つながらる非常に危険な現象です。

事前の対策

- ・被覆処理が不十分となっているものや傷んで電線が出ている状態のコードは使用を控えましょう。



充電電池（バッテリー）による火災

メーカー指定の充電器を使用していない、または、充電電池の使用に応じた設定で充電をしていないことから過充電となり出火する恐れがあります。

事前の対策

- ・具体的な要因は、充電方法の誤りですが依然と比較して減りが早くなったり、充電に時間がかかる、充電時に以前よりも熱くなるような場合は、使用をやめましょう。

